

OAB-J IP 電話の品質要件の在り方に関する研究会(第4回)
議事概要

【日時】 平成26年 10 月 10 日(金) 10:00～10:50

【場所】 総務省 10 階共用会議室1

【出席者(敬称略)】

< 構成員 >

酒井 善則(主査)、相田 仁(主査代理)、内田 真人、小林 真寿美、関口 博正、長田 三紀

※近藤構成員は所用により欠席。

< 事務局 >

吉田 電気通信事業部長、塩崎 電気通信技術システム課長、富岡 企画官、寺岡 課長補佐、山本 係長

【概要】

1. 報告書案について

相田主査代理:PSTNには「基本機能」は規定されていない。「PSTNの基本機能として」という記述は正確ではない。

事務局:修正する。

相田主査代理:接続品質の見直しにおいては、利用者の意見を踏まえることが重要。

事務局:ご指摘を踏まえ修正する。今後、接続品質に対する利用者の意識調査を行うことを検討する。

酒井主査:FAXはPSTNで使えるように設計したもので、通信のスピード等も複数ある。IPの場合は、考え方としては、もっとも基本的なモードで通信が出来れば良い、と解釈するのが良い。

事務局:9月より情報通信技術委員会(TTC)において、FAXの疎通状況の評価方法について検討している。そのような考え方で検討を進めていきたい。

酒井主査:安定品質確保のための方法を告示に記載するということが、どの程度細かく記載するのか。単にその機能を持っていること、とするのか。

事務局:今後検討するが、優先制御、帯域分離についてはそのようになるだろう。この2つ以外については、具体的な記載が必要になることもあるだろう。

内田構成員:UNI-NNIの packets 損失率をUNI-UNI packets 損失率の半分と記載しているが、「半分」という表現は正確ではない。

事務局:修正する。

長田構成員:今後はOAB-J IP電話に移っていったユーザーの品質への意見を反映する事が大切。呼出し音の通知まで30秒など普通は待てない。専門家だけでなく一般ユーザーの声を聞く手立てが必要。

事務局:引き続き利用者に対する調査等を行うことを検討する。

小林構成員:全国の消費生活センター等には、OAB-J IP電話と050 IP電話の基準や品質に大きな違いがあることをそもそも利用者が認識せず、料金等の条件だけを見て契約した結果、FAXが使えない等、思っていたサービスではなかった、等という消費者トラブルが複数寄せられている。利用者の意見を踏まえた基準見直しを行っていく前提として、各電話の品質等に関する消費者への情報提供、アピールをしていくことも重要だと感じている。

2. その他

事務局より、今後のスケジュールについて説明があった。

以上